** 2024 年　4 月　改訂　（第 7 版）
* 2021 年　9 月　改訂　（第 6 版）
承認番号：20900BZZ00648000

医療用品 4 整形用品
高度管理医療機器 靭帯固定具 36174003

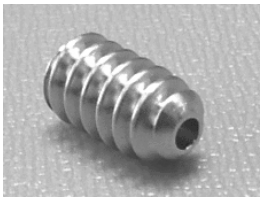
TJスクリュー

再使用禁止

【禁忌・禁止】
（使用方法）
- 再使用禁止
- インプラントを削ったり、表面に傷をつけないこと。［疲労強度が低下し、荷重下で破損する恐れがある］
- 他メーカーのインプラント材料及び材質の異なるインプラント材料と併用しないこと。［相互作用の項参照］
- 金属や異物に対して重篤なアレルギーがある患者に使用しないこと。［不具合・有害事象の項参照］

【形状、構造及び原理等】
1. 組成
チタン合金

2. 形状・構造
本製品に含まれる各インプラントの形状は以下のとおり。
本添付文書に該当する製品の製品名、カタログ番号、サイズ等については、包装表示ラベルを確認すること。



カタログ番号	外径	全長
014A-001-5009H	5.0mm	9.0mm

【使用目的又は効果】
本品は整形外科領域において、骨格部より剥離したり、断絶した靭帯、腱などの軟部組織を再び骨格に固定するために用いられる金具である。

【使用方法等】
1. 使用方法
① 1.6mmガイドピンガイドを骨格部にあてがい、1.6mmパッシングピンを刺入する。
② 骨採取リーマーガイドをパッシングピンに被せる。
③ 電動式、もしくはエア式ドリルに骨採取リーマーを装着し、骨採取リーマーガイドに被せ、骨孔を作成し、骨プラグを採取する。
④ 1.6mm パッシングピン後端穴にリード糸を通し、移植腱を骨孔に通す。
⑤ 移植腱と①で採取した骨プラグを骨孔に挿入し、再度パッシングピンを骨孔に入れ、本品をキャニュレイティド六角ドライバーにて挿入し、固定する。
⑥ パッシングピンを抜く。

2. 使用方法等に関連する使用上の注意
- パッシングピンを刺入する際、イメージインテンシファイア等を用いて、パッシングピンが正しい方向、位置に進入していくことを頻繁に確認すること。［パッシングピンが意図しない方向に進み、周囲の組織を破壊する恐れがある］
- 中空内に骨砕片（いわゆる骨屑）が集積しないように、中空構造をもつ器具はこれを術中に除去すること。
- TJ スクリュー挿入時、ねじの推進力により、骨孔に挿入した骨プラグが浮き上がることがあるので、骨片を下方に押えこみながら TJ スクリューを挿入すること。
- TJ スクリューの挿入及び抜去の際は、六角ドライバー先端をスクリューの六角穴の一番奥まで嵌め込み、回転を伝達する様にすること。〔TJ スクリュー本来の強度が発揮できず、挿入及び抜去中の破損原因となる。〕

***【使用上の注意】**
1. 使用前
本製品は未滅菌の状態で供給されるので、使用前には「日本薬局方」に定める「高圧蒸気滅菌法」に従い、滅菌をすること。

2. 使用注意（次の患者には慎重に適用すること）
(1) 骨形成、骨量、骨質が十分でない患者［インプラントと骨格部の十分な固定が得られない場合がある］
(2) 骨粗しょう症の患者［インプラントと骨格部の十分な固定が得られない場合がある］

3. 重要な基本的注意
(1) 患者に対し、術後の適切な行動について指導すること。［早期、過度の荷重・動作により、インプラントの緩み、破損が生じることがある］
(2) 術後のリハビリテーションは、移植腱と骨の癒合が確認された後、患者への十分な指導と、患者自身の理解のもとに行うこと。
(3) 定期的な術後検査を行うこと。［治癒状況等を確認するため］
(4) 転倒等何らかの外力により、痛み、不快・違和感等が生じた場合、移植腱の再断裂またはインプラントの破損の恐れがある。この様な場合は直ちにX線撮影を行い、慎重な経過観察を行うこと。
(5) 本品は、MR(磁気共鳴)環境における安全性・適合性の評価試験は実施していない。MRI(磁気共鳴画像診断装置)検査において、温度上昇やアーティファイト等が発生する恐れがある。［自己認証による］

4. 相互作用
併用禁忌・禁止（専用品以外併用しないこと）

医療機器の名称等	臨床症状措置方法	機序・危険因子
・他メーカーのインプラント	・磨耗、弛み、磨耗粉等が発生する。	・形状が異なるため適切な組み合わせが得られない。
・材質の異なるインプラント	・腐食により不具合による危険性が高まるおそれがある。	・異種金属が触れ合うと電気化学的作用により腐食が生じる。

5. 不具合・有害事象
(1) 重大な有害事象
- 感染症
- 金属、異物アレルギー反応
まれにあらわれることがあるので異常が認められた場合は直ちに適切な処置を行うこと。

(2) その他の不具合
- 手術後、移植腱と骨の癒合が達成されるまでの体重負荷や運動による過度のストレスにより、金属疲労と荷重の影響から、インプラントが破損することがある。
- 不適切な整復により、インプラントにかかる負荷が増大し、インプラントが破損することがある。
- 患部の治癒の遅れや治癒しなかった場合、荷重の繰り返し負荷により、インプラントが疲労破壊することがある。
- 抜釘時のインプラント折損
体内に埋没された期間が長い場合、骨組織とインプラントとの密着性が増大し、抜去時にインプラントの折損を招く場合がある。

【保管方法及び有効期間等】
保管方法：高温、多湿、直射日光をさけ常温で保管

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】
《製造販売業者》 メイラ株式会社
TEL 0575-24-7059
《製造業者》 メイラ株式会社

《本品の問い合わせ先》
メイラ株式会社 メディカル事業部 業務グループ
TEL 052-459-1277（直通）／FAX 052-459-1282

手術手技書を必ずご参照ください。